

製品名: PP1 α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16390**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	37kDa

抗原情報

遺伝子名	PPP1CA
別名	PPP1CA; PPP1A; Serine/threonine-protein phosphatase PP1-alpha catalytic subunit; PP-1A
遺伝子 ID	5499.0
SwissProt ID	P62136
免疫原	抗血清はヒト PP1- α 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 281-330

背景

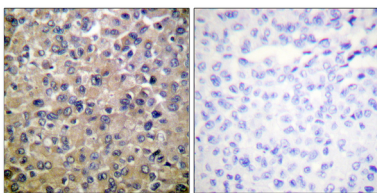
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、タンパク質ホスファターゼ 1 (PP1) の3つの触媒サブユニットの1つです。PP1はセリン/スレオニン特異的なタンパク質ホスファターゼであり、細胞分裂、グリコーゲン代謝、筋収縮、タンパク質合成、HIV-1 ウィ

ルス転写など、様々な細胞プロセスの調節に関与することが知られています。心不全の末期には PP1 活性の上昇が観察されています。ヒトとマウスの両方の研究では、PP1 が心機能の重要な調節因子であることが示唆されています。マウスの研究では、PP1 が学習と記憶の抑制因子として機能することも示唆されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 3 つの選択的スプライシング転写バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: リン酸化タンパク質 + H(2)O = タンパク質 + リン酸。注意: ここに示す配列は、Ensembl 自動解析パイプラインから得られたもので、予備データとして考慮する必要があります。補因子: サブユニットあたり 1 つの鉄イオンと結合します。補因子: サブユニットあたり 1 つのマンガンイオンと結合します。酵素調節: EIF2S1 に対する PPP1R15A-PP1 複合体のホスファターゼ活性は、小胞体ストレスから細胞を保護する薬剤であるサルブリナルによって特異的に阻害されます。機能: タンパク質ホスファターゼ 1 (PP1) は細胞分裂に必須であり、グリコーゲン代謝、筋収縮、タンパク質合成の調節に関与しています。イオンコンダクタンスと長期シナプス可塑性の調節に関与しています。シナプス後肥厚部関連 Ca(2+)/カルモジュリン依存性タンパク質キナーゼ II などの基質の脱リン酸化において重要な役割を果たす可能性がある。オンライン情報:The things we forget - 2003 年 3 月号第 32 号,類似性:PPP ホスファターゼファミリーに属します。類似性:PPP ホスファターゼファミリーに属します。PP-1 サブファミリー。サブユニット:PP1 は、触媒サブユニット PPP1CA、PPP1CB、または PPP1CC で構成され、インヒビター 2 およびグリコーゲン合成酵素キナーゼ 3 によってネイティブフォームに折り畳まれ、次に 1 つまたは複数の標的サブユニットまたは調節サブユニットと複合化されます。PPP1R12A、PPP1R12B、および PPP1R12C は、ミオシンへの結合を媒介します。PPP1R3A、PPP1R3B、PPP1R3C、および PPP1R3D はグリコーゲンへの結合を媒介する。PPP1R9A および PPP1R9B と相互作用する。PPP1R15B、PP1、および NCK1/2 を含む複合体の一部である (類似性による)。PPP1R7 と相互作用する。PPP1R15A および PPP1R15B は EIF2S1 への結合を媒介する。HHV-1 ICP34.5 と相互作用する。

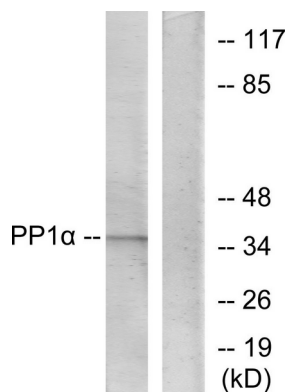
研究分野

卵母細胞減数分裂、血管平滑筋の収縮、接着斑、長期増強、アクチンと細胞骨格の調節、インスリン受容体、

画像データ



PP1-α 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



PP1-alpha 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。